

年表・通学合宿の発見と発展：福岡県飯塚市庄内生活体験学校開設30周年に至るあゆみ

正平，辰男

<https://doi.org/10.15017/2556600>

出版情報：生活体験学習研究. 18, pp.55-57, 2018-07-30. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：

年表・通学合宿の発見と発展

— 福岡県飯塚市庄内生活体験学校開設30周年に至るあゆみ —

正 平 辰 男

はじめに

2018（平成30）年が生活体験学校開設30周年に当たる。生活体験学校の歴史は、手作りのキャンプ場を作ることから始まる。そこで生まれた通学キャンプは、庄内町立生活体験学校という専用施設が竣工し6泊7日の通学合宿というプログラムへと発展する。この間の39年に及ぶ取り組みは5期に区分できる。すなわち、計画立案からキャンプ場作りの4年間、長期（通学）キャンプを始めてからの6年間、庄内町立生活体験学校開設以来の17年間、飯塚市に合併してからの9年間、指定管理者の運営する約3年間である。指定管理者となったNPO法人の名称は体験教育研究会ドングリという。通学合宿は、年間20回前後実施されてきた。現在は1泊2日の生活体験合宿と呼ばれるプログラムが中心であり、2016（平成28）年度は年18回実施の予定である。参加者

の大半は、別途、一日日程の入門講座（子どもゆめ基金助成活動）に参加している。事実上は1泊3日の活動を体験していることになる。通学合宿は、2016（平成28）年度は3回実施されたにとどまる。指定管理者となったNPO ドングリは、初めの1～2年、片付けと清掃に大きな精力を注いだ。2年目に雨天炎天下の活動を容易にする大屋根を新設した。合わせて畑の面積を2倍にして合宿中の野菜はほぼ自給できる生産体験活動をした。3年目は幼稚園・保育所・認定子ども園に対する野外活動支援の拠点になろうという方針を掲げて広報と実践活動に取り組んでいる。

以下、本稿は、現在に至るあゆみ、運営主体であるNPO法人の役員、庄内生活体験学校の職員についての記録である。

1. 長期通学キャンプ実践から庄内生活体験学校実践30年間に至るあゆみ

1979（昭和54）年	9月	庄内町子ども会指導者協議会が、「教育キャンプ場」づくり計画を決定。
1980（昭和55）年	7月	庄内町多田大ケ原の町有林に、庄内町青少年の森・教育キャンプ場を開設。庄内町が235万円を予算措置。
1982（昭和57）年	6～7月	古電柱50本を利用して大屋根（炊事場）を作る。 建柱協力・（有）本松通信工業
1983（昭和58）年	8～10月	第1回長期通学キャンプ実施（期間：5泊7日 16名参加）
1984（昭和59）年	8～9月	第2回長期通学キャンプ実施（期間：9泊11日 26名参加）
1985（昭和60）年	5月	第4回九州地区生涯学習実践研究交流会で長期通学キャンプの実践を発表。
	8～9月	第3回長期通学キャンプ実施（期間：10泊12日 23名参加）
	8月	論文「心身ともにたくましい青少年育成の一方途」福岡県教育科学論文最優秀賞受賞。執筆者、福岡県教育庁筑豊教育事務所社会教育課指導班丸本孝主任社会教育主事以下7名。通学キャンプの教育効果を論証して評価される。
1986（昭和61）年	5月	第5回九州地区生涯学習実践研究交流会で長期通学キャンプの実践を発表。
1987（昭和62）年	1月	第3回生活体験学校建設懇話会、建設の必要を認める結論を出す
	2～3月	子育て地域懇談会開催。庄内町々内10か所、参加者108名。
	5月	福岡県地域振興基金より年間150万円の助成金を3年間受けることが決まる。
	12月	庄内町福祉の里づくり推進協議会を結成。会長に朝原良行氏が就任。
	11月	生活体験学校に管理棟（66㎡）竣工（敷地の総面積10,366㎡）
	12月	ボランティアにより厩舎が完成。建柱協力・（有）本松通信工業

1988 (昭和63) 年	1月	管理棟での通学合宿開始。「海燕」(アングロラブ種) 入厩。
1989 (平成元) 年	3月	生活棟 (456㎡) と作業棟 (162㎡) 竣工。工費5,980万円 年間20回の通学合宿開始。社会教育指導員 4名 (男3女1)
1990 (平成2) 年	3月	動物棟竣工
1992 (平成4) 年	9月12日	第2土曜日、学校が休みとなる。福岡県立嘉穂東高校ボランティア部員14名と障害を持つ児童生徒13名の交流の場がもたれた。「ひこうき雲」の前身
	7月	「海燕」逝く
1993 (平成5) 年		九州大学社会教育主事講習で生活体験学習・通学合宿の講義開始。 2017 (平成29) 年現在も続いている。
1994 (平成6) 年	12月	ドングリの育苗を開始。岡山県庁の取り組み資料を参考にし、田川農林高校の2名の先生から指導を受ける。
1995 (平成7) 年	3月	「生活体験学習入門」出版、著者・横山正幸・猪山勝利・正平辰男、発行所・北大路書房
1995 (平成7) 年		◇通学合宿参加対象学年を下げる。(対象：3～6年生) * 1988 (昭和63) 年度から1994 (平成6) 年度までは小学校4～6年生。 ◇福岡県教育委員会 (所管社会教育課) が通学合宿の普及拡大を目指して3年間の委託事業を開始。 1997 (平成9) 年度末には、県下の通学合宿が24事業に拡大。
1996 (平成8) 年	7月	中央教育審議会第1次答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」において、「合宿通学」として例示される。 ※第3章「これからの地域社会における教育の在り方」(2) 地域社会における教育の条件整備と充実方策②地域社会における教育の具体的な充実方策 (b) 活動の機会の充実 (交流活動の推進)
1998 (平成10) 年	3月	生活文化交流センター竣工。(工費5,079万円・構造：鉄骨造平屋建) (1部2階) 延床面積335㎡。1階212㎡、2階23㎡。大人の物作りセンターとして設置。かまど2基設置。
	4月	「生活体験学校の日々」出版 (著者：正平辰男、製作 (株) プランニングエン)
1999 (平成11) 年	9月	生活体験学校で日本生活体験学習学会主催 第1回実践交流会を開催。6年間続いた。
	10月	庄内町立生活体験学校が第1回朝日のびのび教育賞を受賞。
	12月24日	上記受賞団体の紹介番組がテレビ朝日の関東地域にて放送。番組名「飛び出せ、集まれ、楽しくやろう、みんなの学校」、番組の中で通学合宿が紹介された時間は約7分。地元では画VHSが何度も観られた。
2000 (平成12) 年	3月	「庄内町立生活体験学校沿革資料集」刊行、645頁、箱入り、自費出版。朝日のびのび教育賞副賞々金を充てる。 ◇庄内小学校の「総合的な学習の時間」のスタートに備えた1泊2日の宿泊体験活動が実施された。
2001 (平成13) 年	10月	通学合宿参加対象学年を下げる。 (対象：2～6年生、期間：2年生は2泊3日、3年生は3泊4日、4～6年生は6泊7日)
2004 (平成16) 年	12月	庄内中学校1年生3学級がクラス毎に1泊体験活動に取り組む。
2005 (平成17) 年	11月	「通学合宿・生活体験の勧め」出版 (著者・正平辰男、発行元・あいり出版)
2006 (平成18) 年	3月26日	飯塚市、嘉穂郡穂波町、筑穂町、庄内町、颯田町が合併して新しい飯塚市が誕生。生活体験学校正職員2名となる。(合併前は正職員3名)
	8月28日	庄内町福祉の里づくり推進協議会 朝原良行会長ご逝去。
	9月	市内全小学校5・6年生対象、2泊3日のチャレンジ合宿 (通学しない合宿) 開始。庄内小学校対象の合宿は従来通り。 (2年生は3泊4日、3年生は4泊5日、4年生以上は6泊7日。)
2007 (平成19) 年	4月	生活体験学校正職員1名となる。 ◇2泊3日のチャレンジ合宿 (通学しない合宿) の対象者を3年生まで下げる。(19年度の参加者は、庄内小118名、他の21校の参加者183名、計301名)
	4月	ボランティアグループが竹炭焼きを再開。
2008 (平成20) 年	2月	特定非営利活動法人体験教育研究会ドングリ結成登記。理事長に正平辰男が就任、副理事長に村上哲二が就任。
	3月	飯塚市より大坪集会所 (飯塚市綱分1407) を倉庫として、平成25年2月まで借用。5年間、多くの話し合いをした。
	4月	2泊3日のチャレンジ合宿 (通学しない合宿) 対象を小学校2年生まで下げる。
2009 (平成21) 年	3月	福岡県地域福祉財団より、平成20年度地域ボランティア活動支援促進事業助成団体に採択され、助成金30万円を受ける。助成金でピザ窯を築炉し建屋を設け、ピザ焼きを開始。

2010 (平成22) 年	5月	青少年アンビシャス運動支援の会に助成金を申請し、20万円を交付される(3分の2補助)。事業名「カブト虫プロジェクト2010」。
	6月	初めて子どもゆめ基金助成交付金を申請し、野菜作りを始める。「植物栽培体験2010」計8回の活動。交付額505千円。(現在、2017年度も助成を受けている。)火力プロジェクト、計9回の活動、助成金額174千円。
	7月	「子供の育ちと生活体験の輝き」出版(著者・正平辰男・永田誠・相戸晴子、発行元(株)あいり出版)
2012 (平成24) 年	4月8日	村上哲二副理事長ご逝去。
2014 (平成26) 年	3月	ピザ窯建屋に連結して新建屋完成。資材は飯塚市上三緒の西田キヨ子様より多額の寄付金を充て、NPO ドングリが設計・施工。
2015 (平成27) 年	4月	特定非営利活動法人体験教育研究会ドングリが飯塚市庄内生活体験学校の指定管理者となる。館長に正平辰男が就任
	4月	通学合宿の対象者を庄内小学校4年生以上に限定し、2・3年生は市内の小学校と同様の生活体験合宿に参加することとした。また、従来の2泊3日のチャレンジ合宿を生活体験合宿と呼び名を変えると同時に、1日の事前研修と1泊2日の合宿に改編。
	12月	17年前に植えたクヌギを初めて伐採し、ホダ木を作る。
2016 (平成28) 年	5月	「大屋根」(1306cm×800cm)完成。
	7月	クスノキの初めての枝降ろし。
	10月	「新屋根」(595cm×725cm)完成。炎天・雨天の活動可能。
2017 (平成29) 年	4月	子どもゆめ基金の助成を受けて、集団生活入門講座を開始。通学合宿・生活体験合宿いずれの合宿参加者も、この入門講座で集団生活の心構えや初歩的な技能を身につけることができるようになった。
	5月	クスノキ2回目の枝降ろし。
	6月	シイタケ栽培遮光設備完成(建柱して寒冷紗を張る)。
	7月	生活文化交流センターのシャッター修理完了。
	8月	ピザ窯建屋に板張り完成、725cm×372cm。農楽堂と命名。
	11月	新品ドラム缶を加工して石焼き芋釜2基(3号釜・4号釜)製作
2018 (平成30) 年	1月	コンクリート製の焼却炉を石焼き窯(5号窯)に改造、大屋根に据える。

2. 特定非営利活動法人体験教育研究会ドングリ役員(平成29年9月30日現在)

理事長 正平辰男 理事 篠崎和史 理事 相戸晴子 理事 成重貴康
 監事 平嶋智晃

3. 飯塚市庄内生活体験学校職員(平成29年10月1日現在)

館長 正平辰男 副館長代務 原和也 事務長 谷忠広 支援員 津山武咄
 支援員 正平高志 支援員 祝原政弘 支援員 河中利通 支援員 福間美紀



生活棟と南の菜園



大屋根(手前)・新屋根(奥)



農楽堂・ピザ窯(右端)